

第2学年国語科学習指導案

児童 2年2組 男12名 女21名 計33名
 指導者 小田 順子

大事な事に気をつけながら聞き合い、話題に沿って簡単な応答をする力を育てる学習活動の工夫

1 単元名 お話を楽しもう（学習材名「スーホの白い馬」 光村2年下）

2 単元について

(1) 児童の実態

児童はこれまでの「話すこと・聞くこと」の学習において、順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないで聞いたりする学習をしてきた。この学習を通して、児童は、主述や順序を表す言葉に気をつけて話すことや、聞き取った内容を復唱することができるようになってきた。しかし、対話を進める中で、話題からそれた質問をしたり、よく分かるまで質問したりせず表面的な理解で満足したりしているといった場面を見ることも多く、話題に沿って応答する力、積極的に聞き合おうとする意識を育てたいところである。

このことから本単元では、本にまつわる話題を通して、興味・関心をもって聞き合う楽しさを味わいながら、相手の思いや話題からそれずに応答をする力を確かなものとしていきたい。

(2) 主たる指導事項

本単元の主たる指導事項は、「場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと」である。本単元では、「時間を表す言葉に着目し、出来事の順序に気をつけて読むこと」「場面の様子を表す言葉に着目して読むこと」「登場人物の言動から気持ちを読むこと」が指導の中心である。

本教材「スーホの白い馬」は、たくましく心の優しいスーホと、愛情いっぱい育てられ、スーホの愛にこたえる白馬との心の結びつきを描いた作品である。場面の移り変わりは起伏に富んでおり、児童は、作品の世界に引き込まれ、場面ごとのスーホと白馬の姿に感動を抱くであろう。叙述面では、場面の様子や登場人物の気持ちが、文中の巧みな比喩表現や複合動詞によって描かれている。それぞれの場面には、会話文が挿入されており、スーホの気持ちを的確に表現している。これらの言葉に着目して、スーホと白馬の様子や気持ちを想像しながら読むことができるであろう。そして、モンゴルに古くから伝わる民話をもとに書かれた本教材を学習することで、日本とは違う文化に触れさせたい。また、「スーホの白い馬」や今までに読んだ本について、おもしろいと思ったことなどを紹介し合い、読書への興味を高めるようにしたい。

児童はこれらの学習を通して、叙述に即して想像しながら読み取ることや読書の楽しさを味わうことができるであろう。

(3) 指導に当たって

本単元は、2年生の最後の「読むこと」の教材であることから、今まで児童が「学びの貯金」としてきた学習方法を使い、学習を進めていくことができるように指導したい。

単元のみとおす段階では、「お話を楽しもう」という単元名と「スーホの白い馬」を読むこと、友達に本を紹介することのつながりを知らせ、学習の見通しをもたせる。また、教材文に対する叙述への自分なりの問いかけをもたせたり、題名について考えさせたりして、課題意識をもたせて本文を読ませたいと考える。

ふかめる段階では、場面ごとにスーホの気持ちを中心に読み取る。会話文や人物の行動を表す言葉に着目させたり、登場人物の気持ちを比較しながら読ませたりすることで、スーホと白馬の心の結びつきを読み取らせるようにする。また、多く使われている比喩表現や複合動詞の意味を考えさせ、このような表現の工夫によって、場面の様子や人物の気持ちがよりはっきり分かることに気づかせていく。さらに、対話を通して、自分の力で読み取ったことを確かなものにしたい。そして、「スーホの白い馬」を読み取った後には、物語の楽しさを誰かに伝える学習を組む。この時、「スーホの白い馬」を読んだ感想について、理由なども考えながら、相手に分かるように話すようにさせたい。

まとめる段階では、1年間の読書生活を振り返り、これまでに読んだ中でおもしろかった作品、心に残った作品を紹介する活動をする。紹介の方法として対話を活用する。対話という形式を取ることで、友達の話に興味をもって聞くことや大事な事を落とさないで聞くことを一人一人に意識させることができると考える。また、読書をして感じ方にはそれぞれ違いがあること、読書は楽しいものであることを感じさせたい。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・「スーホの白い馬」を楽しんで読み、また、この一年を通して自分が読んだ中で、おもしろかった本を友達に伝えようとしている。

(2) 話すこと・聞くこと

- ・「スーホの白い馬」を読んで感じたことや、自分が読んでおもしろいと思った本について、順序よく相手に分かるように話すことができる。
- ・友達の話聞いて、聞き取ったことを確かめたり、話題に沿って質問や感想を言ったりして、簡単な応答をすることができる。

(3) 読むこと

- ・場面の様子や登場人物の気持ちなどについて想像を広げながら読むことができる。
- ・物語の展開に応じて、場面の様子や登場人物の気持ちに想像を広げ、言葉の響きなどを考えながら声に出して読むことができる。

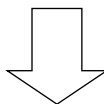
(4) 言語についての知識・理解・技能

- ・文の中における主語と述語の関係に注意して、読んだり話したりすることができる。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 読む能力	エ 言語についての知識・理解・技能
①「スーホの白い馬」を楽しんで読み、自分の読んだ本のおもしろかったところを分かりやすく友達に伝えようとしている。	①「スーホの白い馬」を読んで感じたことや、自分が読んでおもしろいと思った本について、順序よく相手に分かるように話している。 ②聞き取ったことを確かめたり、質問や感想を言ったりして簡単な応答をしている。	①場面の様子や登場人物などについて想像を広げながら読もうとしている。 ②物語の展開に応じて、場面の様子や登場人物の気持ちに想像を広げ、言葉の響きなどを考えながら声に出して読んでいる。	①文の中における主語と述語の関係に注意して、読んだり話したりしている。

[関連する前の単元] 「お手紙」
○二人の行動や気持ちを考えながら、会話に気をつけて音読する。



[関連する対話の指導]
○友達の話の大事な事を聞き取る。
○話題に沿って詳しく知りたいことを聞き返す。

5 学習指導計画（15時間）

時間	学習課題（内容）	学習活動と時間	評価規準（方法）
みとおす	○「スーホの白い馬」を読み、学習計画を立てよう。	・感想を話し合い、学習計画を立てる。 (2)	アー①おもしろいと思ったこと、心に残ったことを中心に感想を書いたり発表したりしている。(発言・ノート)
ふ	○白馬と出会ったスーホの気持ちを考えよう。	・スーホの人柄や白馬との出会い、事件を通じて絆が深まっていく様子を読み取る。 (2)	ウー①叙述をもとに場面の様子や登場人物の気持ちについて想像を広げながら読んでいる。 (発言・挙手・ノート)
	○白馬をとられたスーホの気持ちを考えよう。	・スーホと白馬の一体感が分かる描写や殿様の横暴によってスーホが受けた体や心の傷を読み取る。 (2)	
か	○スーホのもとへ帰る白馬と、白馬介抱するスーホの気持ちを考えよう。	・スーホのもとへ走る白馬の強い思いと、白馬を失うスーホの悲しみを読み取る。 (1組 本時2/2) (2)	ウー②物語の展開に応じて、場面の様子や登場人物の気持ちに想像を広げ、言葉の響きなどを考えながら声に出して読んでいる。 (発言・ノート・音読)
	○馬頭琴を弾くスーホの気持ちを考えよう。	・馬頭琴を作り、弾くスーホの様子から、変わらぬ白馬への思いと絆を読み取る。 (2)	
る	○「スーホの白い馬」のお話を紹介しよう。	・「スーホの白い馬」の自分の好きなところを選んで説明したり、音読の仕方を考えたりして、お話の紹介をする。(3)	
まとめる	○自分が読んでおもしろかった本を友達に紹介しよう。	・自分が読んだ本の内容を友達に紹介する活動を通して、読書の楽しさや喜びを確かめ合う。 (2組 本時2/2) (2)	イー①自分が読んでおもしろかった本について、順序よく相手に分かるように話している。(対話) ②聞き取ったことを確かめたり、質問や感想を言ったりして応答している。(対話)



<生かす単元> 「きつつきの商売」(3年 上)
森で聞こえる音や会話を想像しながら読む。

6 本時の指導

(1) ねらい

自分が読んで楽しかった本の紹介を聞き合い、話題に沿って応答をしながら、読書の楽しさに気付くことができる。

(2) 展開

段階	学習活動 (○発問)	時間	◇ 学習内容	教師の関わり方 ☆評価 (方法)
みとおす	1 学習のめあてと、学習の進め方を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">友だちと本のしょうかいを聞き合おう。</div>	5	◇学習の進め方を確かめること。 ・ 1対1で対話をする。	・ 友達の本の紹介を聞き、質問したり、感想を言ったりして交流し合う学習であることをおさえる。
ふかめる	2 お話の紹介を聞き合う。 (1) 聞き合いの仕方を確かめる。 (2) 1回目の対話を行う。 ○友達と「読んでほしいお話」を紹介し合いましょう。 (3) 聞き合いの様子を交流する。 (3) 2回目の対話を行う。	5 15 15	◇自分が好きな本について、順序よく話すこと。 ◇話題に沿って質問すること。 <もっと詳しく知りたいことを聞く> ・ お話のあらすじについて ・ 登場人物について <理由を聞く> ・ その本を読もうと思った理由について ・ 友達の「好きな場面」や「おもしろかったところ」について ◇感想を言うこと。 ・ お話のあらすじから ・ 友達の「好きな場面」や「おもしろかったところ」から ・ 自分の経験や知識から	・ 相手の話には興味・関心を持ちながらしっかり聞き、感じたことを伝えられるよう、二人一組で聞き合わせる。 ・ 二人の選んだ本が同じにならないよう配慮する。 ・ 「話題に沿う」ことは相手の思いから離れないことであることを意識させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">☆相手の話を聞き取り、話に沿って、質問したり感想を言ったりして簡単な応答をしているか。 【努力を要する児童への手立て】 聞き取ったことを確かめ、さらに詳しく知りたいことはないか、理由を知りたいことはないかを考えさせ、発言を促す。</div>
る	3 学習の感想を交流する。		◇聞き合いの様子を交流し、質問や感想の観点を確かめること。 ◇対話の相手を替え、自分の好きな本について順序よく話すこと。 ◇話題に沿って質問すること。 ◇感想を言うこと。	・ 確認した「質問や感想の観点」を、対話に生かすように意識させる。
まとめる	4 学習のまとめをする。	5	◇読書の楽しさについてまとめ、単元の学習をふり返ること。	・ 「読書」の楽しさに気が付き、今後も楽しんで読書しようとする意欲につなげる。